

# 惡心筆 文 字 書 體

冷汗冷汗。

# 秋原朔太郎

金華

文

●萩原朔太郎生誕140年記念  
前橋文学館コレクション展

2026.3.21[土]—5.24[日]



展覧会案内サイト

A simple pink line drawing of a cat's head, facing forward. It has large, expressive eyes and a small nose.

# 萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち 前橋文学館

**【主催】**前橋市 **【協力】**芸術新聞『裏』、『本音』  
**【開館時間】**9時～17時（入館は30分間おき）  
**【観覧料】**500円 ※朝太郎展示室のみ観覧料100円  
**【観覧無料の日】**3月21日（土）展覧会初日

**【会場】** 2階企画展示室  
日程、4月30日(木)・5月7日(木)は休館





萩原朔太郎自筆資料など(全て当館蔵)



○アクセス○

電 車：JR前橋駅北口から徒歩約15分／タクシーで約10分

上毛電鉄中央前橋駅から徒歩約5分

バ ス：JR前橋駅北口バスのりば

・3番のりばから「中央前橋駅」行き(シャトルバス)

「中央前橋駅」下車 徒歩約5分

・6番のりばから「荻窪公園・嶺公園」行き

「城東町二丁目バス停」下車 徒歩約5分

自動車：関越自動車道 前橋LCから車で約15分

※広瀬川サンパーキング(市営P城東)のご利用に際しては、駐車券に割引処理いたします。

萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち  
**前橋文学館**

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10  
TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512  
<https://www.maebashibungakukan.jp>

申込み(先着順)は2月20日(金)9時より前橋文学館へ。(Tel: 027-235-8011)

○オープニング・イベント

書家・沢村澄子によるパフォーマンス

「悪筆ニテ、モノ申ス!」

日 時 3月21日(土) 14時～

会 場 1階ロビー

参加費 無料

制作された作品は、展覧会会期中1Fロビーに展示されます。

要予約・定員50名

沢村澄子

1962年大阪市生まれ。1985年新潟大学教育学部特設書道科卒業。新潟大学在学中より個展を中心とした作品発表を継続、100回を超える。国内外でのワークショップやパフォーマンス、他ジャンルとのコラボレーション、グループ展などにも積極的に参加。書を「書くこと(Writing)」と定義し、「描かないこと(Not drawing)」で自作と絵画を分別する。2019年第29回富沢賢治賞奨励賞、2023年第73回芸術選奨文部科学大臣賞(美術部門)受賞ほか。

沢村澄子 web site



○担当芸員によるギャラリーガイド(予約不要) 4月25日(土)14時～  
同時開催 前橋文学館 共催展「よみぐすり、処方します。処方箋文庫」  
2026年3月20日(金・祝)～5月17日(日)

アーツ前橋 「塩原友子展」  
2026年4月25日(土)～6月14日(日)

●萩原朔太郎生誕140年記念  
前橋文学館コレクション展  
悪筆。文字書體  
をなさず。  
冷汗冷汗。

「萩原朔太郎と文字」

わたしたちが普段なにげなく目にしている「文字」。文字について考え機会はなかなかありませんが、あらためてふりかえると、わたしたちは毎日スマートフォンやパソコンなどで大量の文字情報を発信する一方手書きの文字は消えつあります。  
手書きの文字には書き手の個性があらわれ、文字が示す内容だけではなく、書いた場面や書き手の想いなど、その背景まで読みとれるようです。手書きの文字は諷刺とも言えるでしょう。

本展では、当館が収蔵する萩原朔太郎の資料から、直筆の原稿や書簡を中心に「文字」を手がかりに、朔太郎の視点や垣間見えるものをさまざまな角度から検証します。同時に、デジタル社会の現代において「文字を書く」ことを今いちど考えます。また本展のために、萩原朔太郎賞ゆかりの方々に、朔太郎の詩を手書きで書き下ろしていただきました。ぜひ会場でご覧ください。



石神の丘美術館にて